

音鑑・夏の勉強会 2016

「よりよい授業を求めて」

8月19日・8月20日～21日

教員免許状更新講習（選択領域6＋12時間）認定

昨年度に続き3日間の開催となり、1日目に音楽講座、2・3日目に授業づくりの研修という内容で行いました。

1日目の午前中は「我が国や諸外国の伝統的な音楽」についての講義で音楽科における取り扱いについて学び、午後は朝鮮半島音楽、アフリカの打楽器、日本・東南アジアの竹の楽器のワークショップで、カヤグムやチャンゴ、アフリカの打楽器、トガトン、バリンペン、こきりこなどを実際に体験しました。初めて実物を見る楽器の、その音の大きさに驚いたり、演奏の仕方に驚いたり、楽しく学びました。

リカの打楽器、日本・東南アジアの竹の楽器のワークショップで、カヤグムやチャンゴ、アフリカの打楽器、トガトン、バリンペン、こきりこなどを実際に体験しました。初めて実物を見る楽器の、その音の大きさに驚いたり、演奏の仕方に驚いたり、楽しく学びました。

1日目（8月19日）

研修内容：●講義「我が国や諸外国の伝統的な音楽～その特色と指導～」

●ワークショップ〈朝鮮半島音楽〉〈アフリカの打楽器〉〈日本・東南アジアの竹の楽器〉

講師：藤沢 章彦（文教大学講師、当財団理事）

加藤富美子（東京音楽大学教授）

李 明姫（韓国重要無形文化財第23号伽倻琴併唱履修者、李明姫国楽院代表）

李 昌燮（一般社団法人民族音楽院 代表理事、サムルノリ・韓国打楽器奏者）

飯田 茂樹（東京学芸大学非常勤講師、NPO 法人日本インドネシア・バリ教育文化協会理事長）



▲研修にあたってのお話をされる藤沢章彦先生



▲講義中の様子



▲講義をする加藤富美子先生



◀チャンゴは李昌燮先生に教わります



◀1人ひとりにアドバイスする李明姫先生

先生方の生演奏は、迫力ある歌声と音色でした▼





▲世界の竹でできた色々な楽器をグループで演奏する



◀トーキングドラムは本当に話しているように聞こえ、驚きの声



難しく聞こえたリズムも、先生に合わせて叩いているといつの間にか叩けるように▶

2日目の午前中は「学習指導要領の内容と学習評価」についての講義を聞き、午後から3日目にかけては、グループ毎に研修をしました。

グループ研修では、さまざまな音源を聴き比べ、ねらいに適した教材を選ぶ方法、〔共通事項〕

を窓口にした楽曲分析の方法、指導の流れの考え方や評価の方法、などを講師の先生にアドバイスをもらいながら、グループの先生方と、よりよい授業を求めて考えを深めていきました。

2日目・3日目 (8月20日・21日)

研修内容：●講義「学習指導要領の内容と学習評価」

●グループ研修「音楽鑑賞の指導と評価」の実際

講師：藤沢 章彦 (文教大学講師・当財団理事)

館 雅之 (神奈川県横浜市立高田東小学校長) / 梅宮 真里 (福島大学附属小学校教諭)

熊倉佐和子 (東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭) / 萬 司 (北海道札幌市立澄川中学校主幹教諭)

中心教材：小学校Aグループ「白鳥」 / 小学校Bグループ「威風堂々」

中学校グループ「アランフェス協奏曲」

「学習指導要領の内容と学習評価」の▼
講義をする館雅之先生



▲同じ楽曲のさまざまな音源や映像を比較します



▲グループ全員が楽曲を聴いてその特徴をひとつずつ付箋紙に書き、〔共通事項〕ごとに仲間分けをする▶



▲評価規準設定の方法を助言してくれます



▲講師の先生にアドバイスをもらうことも



▲何度も何度も音源を聴き直す



▲グループ全員で検討



▲指導の流れを考える



▲最後に全体で研修内容の報告をする



▲研修のまとめとして、グループごとに振り返りをする